

エルサルバドル政治経済月報 (2024年4月)

2024年5月
在エルサルバドル大使館

内政

1. 農牧臨時大臣の辞任（官報）

4月2日、オスカル・グアルダド農牧臨時大臣が辞任、農業改革機関（ISTA）の理事長も辞任する。現政権にて農牧大臣の辞任は4人目。

2. フローレス大統領戦略プロジェクト府担当補佐官の逮捕（検察庁プレスリリース）

4月25日、検察庁はクリスチャン・フローレス大統領府戦略プロジェクト担当補佐官を贈収賄の疑いで逮捕した。検察庁の発表によると、同補佐官は自身の立場を利用して政府の戦略的プロジェクトへの優先的な参加と引き換えに、個人や企業に金銭を要求していたとされる。

3. 憲法改正手続きを定める憲法条項の改正

4月29日、エルサルバドル議会は、憲法改正手続きを定める憲法第248条の改正案（これまで、手続きの改正には二会期にまたがって投票・承認を得る必要があったものを一会期内で可能とするもの）に関し、異なる会期における二回の投票のうち一回目が行われ、賛成66票の過半数の票を得て承認された。次会期は現行の84議席から60議席に減少されるどころ、3分の2となる40票以上の賛成票を獲得する場合、同改正が承認、批准される。

外交

1. ウジョア副大統領（休職中）およびミラ外務副大臣の中国訪問（外務省プレスリリース等）

4月10日から約1週間にわたり、ウジョア副大統領及びミラ外務副大臣他は中国を訪問、10日には、エルサルバドル代表団は、北京にて韓正（HAN Zheng）中国国家副主席をはじめとする中国代表団と会談した他、ミラ外務副大臣及び華春瑩（HUA Chunying）中国外交部外務次官補を筆頭に第一回政策協議を開催した。また、王受文（WANG Shouwen）中国商務部副部長、中国国家国際発展合作署（CIDCA）やCHEN Bin 中国輸出入銀行（Eximbank）副行長及びCHEN Sichang 中国土木行程集团有限公司（CCECC）社長、中国建設集团有限公司代表とも会談した他、杭州市を訪問し、アリババ社やファーウェイ社を視察した。

2. 当地中国大使館主催エルサルバドルとの相互関係及び意見交換促進のためのセミナー開催（4月13日付ディアリオ・エルサルバドル紙）

4月12日、当地中国大使館は、エルサルバドルとの相互関係及び意見交換促進のためのセミナーを開催し、中国からQiu Xiaoqi 中国外交協会副会長、Ou Jianhong 初代駐エルサルバドル中国大使、Lu Xu 元駐カルガリー中国総領事、Chen Ping 元駐イキケ（チリ）中国総領事等が来訪した。エルサルバドルからは、ピネダ教育大臣、デ・パルマ国際協力庁（ESCO）長官、文化副大臣等が出席した。

経済

1. 「ベタージョブ指数 2024」の公表（4月発表 IDB 報告書）

* ベタージョブ指数：量的側面と質的側面の両面から労働環境を評価するものであり、量的側面は労働参加率と就業率から測定され、質的側面はフォーマルセクターの労働と貧困ラインを超える収入割合により算出される。同指数は0から100で算出され、仮に一国のベタージョブ指数が100ポイントの場合は、全ての生産労働人口が就業し、フォーマルセクターで就業するとともに貧困ラインを超える十分な収入を得ていることを意味する。

米州開発銀行（IDB）は中南米地域17か国における「ベタージョブ指数 2024」に係る報告書を発表。中南米地域のベタージョブ指数は57.6ポイントを記録、質的側面が量的側面を大きく下回った。また、右指数は男女間及び若年層と中・高年層においても乖離が見られる結果となった。このうち、エルサルバドルのベタージョブ指数は51.46ポイントと中南米地域17か国中下から4番目、量的側面は69.85ポイント（下から4番目）であり、質的側面は33.08ポイント（下から5番目）。

2. IMF との借款交渉状況と同交渉におけるビットコインの位置づけ（IMF プレスブリーフィング）

4月4日、コザック IMF 報道官はプレスブリーフィングの場で、IMF とエルサルバドルの借款交渉の状況について次のとおり述べた。

(1) IMF は、IMF のサポートプログラムについて合意することを目指し、エルサルバドル当局と建設的な議論を継続。議論の争点は、財政及び対外経済の持続可能性を強化し、生産的成長を促し、経済ガバナンスを強化する政策であり、ビットコインのリスクに対する対処は、エルサルバドル当局との議論における重要な要素である。

(2) エルサルバドルの直近の動向は、観光及び建設が2023年GDP成長率を牽引した。これは堅調な郷里送金と劇的な治安改善を背景にしたものであり、また、世界的な物価下落を背景に、インフレ率は下降傾向にあるのと同時に、経常収支の赤字は縮小しつつある。2023年の財政政策は、歳出を抑えて債務返済が行われたものの、年金支出に加えて、公共投資が増加したことから、やや緩和的であった。

3. 国債の早期償還の発表

4月8日、エルサルバドル政府は、各債券保有者に対し2025年、2027年及び2029年に満期を迎える国債の早期償還を同日から始め、期限は4月15日午後5時（ニューヨーク時間）であり、支払日は4月19日を予定している旨発表した。また、エルサルバドル政府は、(1)2025年満期の国債（3億4,791万7,000ドル（利率5.875%））、(2)2027年満期の国債（8億ドル（利率6.375%））、(3)2029年満期の国債（6億108万5,000ドル（利率8.625%））の順位に基づき、優先的に支払いを受け付ける意向である。

4. ニューヨーク市場における10億ドルの起債

4月11日、エルサルバドル政府はニューヨーク市場において、10億ドルの起債（償還期限6年、利率12%）を行った。今回の起債には、2025年10月までに(1)国際通貨基金（IMF）からの借款を実現する、(2)右借款が実現しない場合には財政調整を行う、または、(3)格付会社3社のうち2社がエルサルバドルの国債格付評価を格上げする（注：現在、S&P社が「B-」、フィッチ社が「CCC+」及びMoody's社が「Caa3」という条件が付されている。仮に右条件が守られない場合、利率が12%から+0.25%の12.25%に上昇し、さらに2026年までに同条件が守られていない場合は、利率が16%まで上昇する。元本は2028年から毎年3分の1返済する予定であり、同起債に対する市場の反応は需要過剰となっている。

5. 中国・エルサルバドル FTA 交渉開始（オンライン会見）

4月16日、エルサルバドルと中国はFTA交渉を開始する旨の公式会見（オンライン）を行った。
(1)Wang 中国商務省副部長の発言

エルサルバドル・中国の FTA 交渉開始を宣言する。中国におけるエルサルバドルの存在感はコーヒーや砂糖等を通して顕著であり、他方、エルサルバドル人の日常生活における中国製品の使用は増えつつある。昨年の二国間の貿易総額は 18 億ドルを上回り、右は 2018 年以前（注：両国の外交関係樹立年）と比べ 2 倍になっている。中国はエルサルバドルにとり 3 番目の貿易相手国であり、中国は長期的かつ安定した貿易関係を提供する他、中国・エルサルバドル経済は潜在的な協力関係により補完され得る。FTA の締結は経済協力を補完し、デジタル経済やグリーン開発分野における貿易及び投資の質と水準を格上げするものである。可能な限り早く FTA が締結されることを期待する

(2) アエム経済大臣の発言

Wang 中国商務省副部長の言葉に感謝申し上げるとともに、本日（4 月 16 日）、中国とともに FTA 交渉を開始できることを嬉しく思う。これは、両国間の経済関係を深化させ、かつ投資機会を可能とするための強いコミットメントを示すものである。我々は自国の経済力を最大限に発揮すべく、治安の改善、投資の簡素化、公共サービスのデジタル化、ロジスティクスに関わる公共インフラの整備等を整えつつある。我々は、両国間の貿易関係及び投資における戦略的パートナーとして強固となるための適した時期にあることを確信している。また、我々は中国との FTA 締結がエルサルバドルの財とサービスの輸出可能性を広げ、エルサルバドル人により良い機会と生活の質の向上をもたらすことを期待している。改めて、中国との FTA 交渉開始を嬉しく思うのとともに、同交渉成立を可能な限り早く実現できるよう努めていく。

6. Fitch 社による長期ソブリン債の格付（Fitch 社レポート）

4 月 30 日、格付会社 Fitch 社は当国の長期ソブリン格付評価並びに経済情勢に係るレポートを発表。エルサルバドルの長期ソブリン格付評価は前回の発表と同じ「CCC+」。主な要因は高水準の公的債務、直近の年金関連の債務不履行、限られた資金調達能力及びガバナンス指標の低下。2023 年の 3.5%に及ぶ経済成長率は特に建設部門とレクリエーション・サービス部門の成長によるもの。また、治安の劇的な改善はエルサルバドルの潜在的な成長を押し上げる可能性を有す。当国の格付評価が格上されるには、IMF との合意等の追加的資金の調達、または財政調整、経常収支の赤字化の構造的な改善及び海外直接投資（FDI）等を通じた、外貨準備高の持続的な改善が必要。

7. 英金融機関による当国の経済情勢（EMFI グループによるカントリーレポート）

4 月 30 日、英金融機関の EMFI グループは、当国の経済情勢に係るカントリーレポートを発表した。そのなかで、IMF との借款交渉成立の課題は、IMF 勧告に耳を傾けないブケレ大統領の姿勢であるとした。直近の 10 億ドルの起債により、財政持続性は悪化、同起債によって調達した資金で行う国債の早期償還は IMF との借款交渉成立の強いインセンティブとなるが、EMFI グループはエルサルバドルと IMF との借款交渉成立の可能性は低いと予測。

8. 中国企業からの融資による市内バス買い替え（4 月 24 日／29 日付主要各紙）

(1) エルサルバドル政府は議会に対し、サンサルバドル首都圏市内バスの買い替え費用として中国企業の Yutong Bus（宇通客車）社から約 1 億 7,950 万ドルの融資を受けることの承認を求めた。右費用は購入に必要な額の 85%であり、残る 15%はエルサルバドル政府によって負担される。この要請は議会に受理され、財務委員会及び特別予算委員会へと送られた。

(2) ロドリゲス公共事業大臣によると、本年中に現在運行されている 900 台の市内バスの車両が耐用年数を迎えるため、買い替える必要がある由。同省としては合計で 1,500 台の車両買い替えを模索しており、今般の融資でその一部が実現される見込み。

(3) 本件は、4 月 26 日に当国議会財務委員会、4 月 29 日に本会議で承認されたため、エルサルバドル政府は今後、同社からバスの購入に必要な資金の 85%にあたる約 1 億 7900 万ドルを 6.5%の固定金利で借り入れ、それを 96 回（8 年）払いで返済することとなる。

9. 公共事業省とインド企業の間でのバス購入及び鉄道建設に関する覚書の署名（4月28日及び30日付ラ・プレッサ・グラフィカ紙及エル・ディアリオ・デ・オイ紙）

4月17日、在グアテマラ・インド大使館（エルサルバドル及びホンジュラス兼轄）は、エルサルバドル政府（公共事業省）が、インドのラクシュミ・キャピタル(Lakshmi Capital)社との間でバス購入に係る覚書に署名した旨発表した。Lakshmi Capitalはこれまでエルサルバドル政府に対して積極的に金融支援等を行ってきている国際コングロマリット SRAM & MRAM Group の子会社の由。

(2) ブケレ大統領の弟であるイブラヒム・ブケレ大統領顧問、ロドリゲス公共事業大臣、レジエス公共事業省交通副大臣ら6名がエルサルバドル政府代表団としてインドを訪問し、チェンナイのエンノールにあるインドの商用車メーカーであるアショク・レイランドの工場を訪れ、バスの製造過程を視察したほか、代表者らと面会し、バスの製造及び運営に関する協力や技術的意見交換を実施。

(3) また、鉄道インフラ開発の観点から、政府代表団は2023年12月に公共事業省とラクシュミ・キャピタル社間で署名された200万ドル相当の全長22kmの鉄道(Metro line)建設に係る意向確認書に基づきニューデリーにあるデリー・メトロ公社(DMRC)を訪問。そこでは鉄道路線のあり方、駅のデザイン、鉄道車両購入、信号システム、安全プロトコル等についての意見交換が行われた。

(4) ラクシュミ・キャピタル社との間で5,000台、4億7,500万ドルのバス購入にかかる覚書の署名が行われたことに関して、エルサルバドルの国家公共交通委員会関係者らは本件詳細を一切承知しておらず、政府に対して情報公開を求めている由。